

VoIP 網の品質維持を強力サポート アルチザが複数拠点の集中監視を可能に

通信事業者や企業ユーザーでVoIPネットワークの本格運用が進んでいる。

これに伴い、VoIP測定機器に対して音声品質の継続監視機能が求められるようになった。

こうしたニーズに応え、アルチザネットワークスでは評価の高い「Artiza VoIP Analyzer」のバージョンアップとともに、複数拠点の音声品質を集中監視できる「Artiza Software Probe」の提供を開始した。

アルチザネットワークスは3月18日、音声品質測定ツール「Artiza VoIP Analyzer」の新バージョン(Ver1.5)をリリースした。ポイントは、VoIPパケット解析、パケットロスやジッタ測定、R値・MOS値による音声品質評価のリアルタイム表示機能を追加したこと。これにより、VoIPの音声品質測定やインタラクティブな各種テストにおける速やかな情報把握と詳細解析を実現する。この機能はアナライザの利用シーンとしてこのところ増えているショールームでのデモンストレーションや、運用担当者向けの教育用途にも活用できる。

さらに同社は、VoIPネットワークの遠隔監視を可能にする「Artiza VoIP Software Probe」を3月31日に発売した。Artiza VoIP Analyzerをベースに、ネットワーク内の拠点などに設置しデータ収集・測定を行う「ソフトウェア・プローブ(SP)」と、SPをコントロールする「SP-マネージャ」を組み合わせ、複数拠点におけるVoIPの音声品質をリアルタイムに集中監視できる。

アルチザネットワークス・プロダクト統括本部VoIPネットワークソリューシ

ョンズ・マーケティングの大辻尚氏によると、Artiza VoIP Software Probeは当初、050番号の本格化をターゲットに、初夏にリリースする計画だったが、「昨年12月に開催されたVON Japanに参考出品したところ、『今すぐにでも使いたい』とのご要望を多くいただいたことから、リリースを早めることになりました」という。VoIPネットワークを試験から本格運用へと進めるIP電話事業者や企業ユーザーにとって、「品質維持」に貢献するものとして評価されたということだ。

Software Probeの価格は、VoIP Analyzer(音声品質測定機能付き)×1ライセンス、ソフトウェア・プローブ×2ライセンス、SP-マネージャ×1ライセンスの基本パッケージで320万円となっている。

32ヵ所のVoIP品質を集中監視 既存システムとの統合も可能

ソフトウェア・プローブは、汎用PCにインストールして監視対象拠点に配置するだけで、各所のRTPパケット数、R値、回線使用率などの情報を、Artiza VoIP Analyzerのキャプチャデータとして指定したインターバルで収集し、レポートする。一方、



品質測定のリアルタイム表示を可能にした「Artiza VoIP Analyzer ver1.5」および「Artiza VoIP Software Probe」と組み合わせ、遠隔拠点の一元監視も行える

SP-マネージャは、最大32のソフトウェア・プローブを同時にコントロールでき、定期的に統計情報を収集して表示する。

また、既存のネットワーク監視ツールと組み合わせ使用できる点も大きな特徴。VoIPネットワークの監視機能を、使い慣れたネットワーク監視ツール上で使えるというわけだ。

今後、Software Probeの機能拡張として、シグナリング品質測定、SNMP対応などを進めていく。

さらにアルチザネットワークスでは、6月に「VoIPトラフィックジェネレータ」の発売も予定しており、すでに販売しているネットワーク監視ツール「NetVital」を含めた総合的な運用管理も可能にしていく。大辻氏は、「お客様の既存システムとの組み合わせに加え、当社製品でのトータルなシステム構成も実現していくことで、より幅広いニーズに応えていきます」と語っている。

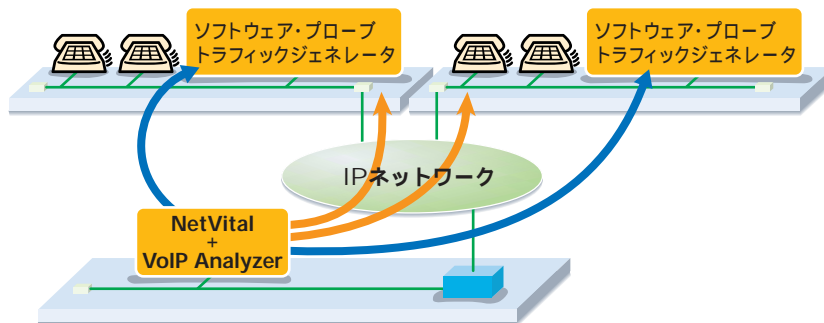


図 アルチザ製品によるVoIP網の総合運用管理

お問い合わせ先

株式会社アルチザネットワークス
プロダクト統括本部
TEL : 042-529-3494
E-mail : voip@artiza.co.jp
URL : http://www.artiza.co.jp/